

備えがあるから
憂いなし!!



防災に向けたマガジンスタイルペーパー

Magazine style paper toward Disaster

防災のある暮らし

Take Free!! ¥0

07

VOL.

2016 AUTUMN

INDEX

1. 異色の経歴を持つ防災エキスパートは、次世代の「防災人」を育てる 神戸学院大学 中田敬司 氏
2. オフィス・工場の耐震性を高める パソナ・パナソニックビジネス(株)
3. 地元密着型テレビ局の防災貢献 (株)テレビ埼玉
4. 多言語対応 金沢救急アプリ
5. 防災現場で働く女性シリーズ

since 2013

防災最前線 interview

消防航空救助隊員・JICA国際緊急援助隊・大学教授 異色の経歴を持つ防災エキスパートは 復興を遂げた被災地で、次世代の『防災人』を育てる

1995年1月、阪神淡路大震災で大きな被害を受けた、神戸ポートアイランド。被災後21年が経ち、見事な復興を遂げたこの地に、神戸学院大学(以下 神学大)の広大なキャンパスがある。

ここで社会防災学科の教授を務める中田敬司氏は、いわゆる大学教授という肩書きから想像する学究肌なタイプとは程遠い。

がっしりとした体躯、よく通る声、そして明朗闊達な語り口。それもそのはず、中田氏はかつて広島市消防局で消防航空救助隊員として活躍した後、JICA国際緊急援助隊の医療チームで活動。その後、縁あって大学で教鞭をとるようになったという、災害や命に関わる最前線の現場からやってきた教授なのだ。

「今は講義や会議等が多く海外派遣などの要請に応じる機会は少なくなりましたが、今でもJICAの関係委員やアドバイザーは務めていますし、まだまだ現役のつもりで

いますよ」と屈託なく笑う中田氏の経歴を、もう少し詳しく紹介してみよう。

1983年に広島工業大学を卒業した中田氏は、広島市消防局に入局する。消防隊員として活動した後、レスキュー隊員になり、さらにそこから、当時広島市で整備がはじまったばかりの消防航空救助隊員に選ばれて、ヘリコプターを使った救助活動に取り組むことになる。

「私が隊員になった頃は、航空救助隊の救助マニュアルもまだ定まっておらず、実践経験も少なかったため、まず自分たちでマニュアルをつくらるところからのスタートでした。



神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科教授 医学博士

中田敬司

Keiji Nakata

PROFILE

1959年 愛媛県生まれ
広島工業大学卒業
広島市消防局入局 消防航空救助隊員及び国際消防救助隊として活動
1999年から、JICA国際緊急援助隊(JDR)医療チームメンバーとして
コロンビア・トルコ・台湾・イラン・スリランカの地震及び津波災害救助活動に従事。
現職は神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 教授
日本医科大学大学院 博士課程修了 医学博士
専門分野は災害医療・防災・救急・労働安全衛生ほか



公職

JICA国際緊急援助隊医療チーム総合調整部会 アドバイザー
JICA国際緊急援助隊感染症対策チーム作業部会 委員
厚生労働省医政局DMAT事務局 参与
日本DMAT検討委員会作業部会 委員
日本集団災害医学会 理事
災害医療ロジスティクス検討委員会 委員長
(社)日本災害医療ロジスティクス協会 理事
NPO法人 HuMA 常任理事

どんな事態にどのように救助するのか、現地に行つてこんなトラブルが起きたら、どう対応するか。日々ブラッシュアップしながら、現在につながる基礎的な救助法をまとめたのが、私たちの世代です」と、中田氏。

この頃の試行錯誤や悩み、海洋県でもある広島でのレスキュー隊員訓練のきつさなどは、今でも語り草になつているというが、その表情はあくまでも明るく頼もしい。



消防航空救助隊時代

行政マンとして培ったノウハウを民間に伝え 災害に対応できる人財の層をもっとぶ厚く

航空救助隊員として激務に臨むかたわら、国際消防救助隊員としても活躍していた中田氏は、おりしも阪神淡路大震災発生年の年である1995年、消防局を退職して起業。現在も続けている「日本安全工学研究室」を立ち上げた。

その背景には、大震災の後に急増した、民間企業からの防災や防災に関するアドバイス要請などに、より深く応えたいという想いがあつたという。

「私は長年、行政マンの立場で被災地に入り、救助や防災のノウハウを蓄積してきました。しかし、あ

の大震災の後、この経験と知識をもっと広く伝えていくことが重要なのではないかと。そうすれば民間の防災力が高まり、結果としてより多くの命が救えるのではないかと考えるようになったんです」。

といつても、根っから現場主義の中田氏のこと。コンサルタント業務に注力するわけではなく、能力を惜しんだ上司の勧めで、JICA国際緊急援助隊(以下JDR)の医療チームメンバーにエントリーする。

JICAのJDR医療チームでは、災害発生時に救援資材をどう現地に運び、配分するかというロジス

ティクスの分野でリーダーシップを發揮し、コロンビア・トルコ・台湾・イラン・スリランカなどで起きた地震や津波の災害救助に従事した。

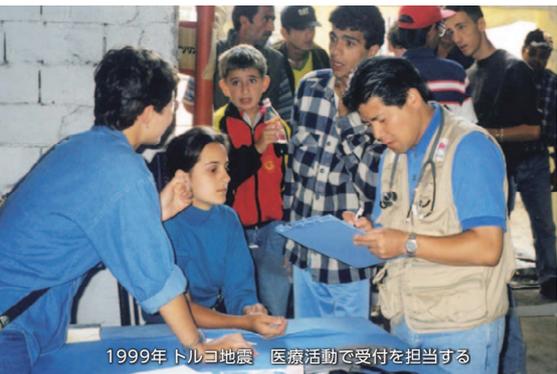
地震をはじめ多くの天災を経験している日本からの支援は、世界各国で大きな成果を上げているが、その一方で、突然の大災害になすすもなく、多くの命が失われていく海外の被災地を目の当たりにして、中田氏は防災教育や、いざという時に動ける防災人育成の重要性を、ますます痛感するようになった。

そんな中田氏が、直接、人財育成に関わることになったのは、2003年のことだった。山口県・下関にある東亜大学の医療学部で救急救命コースが開設されることになり、その教員として招聘されたのだ。



1999年トルコ地震 診療所を現地に開設

この大学で「命を救える人」を目標とする若者たちを数多く指導した中田氏は、10年間の同大での職務の後、2013年から神学大教授に就任。かつての被災地の面影はすっかり消えた神戸ポートアイランドで、次なる人財育成のステージを目指して、アグレッシブな活動を始めた。



1999年トルコ地震 医療活動で受付を担当する



2003年 イラン地震における医療活動
1日に多い時では200人以上の患者の問診や簡単な外科処置を行った



2004年 スリランカ津波災害 質問シートに沿って症状をヒアリング



2004年 スリランカ津波災害 スリランカ陸軍 キャンプ地でのミーティング

現在の中田氏の名刺には、神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科教授と刷られている。その肩書きで、神学大ではどのような講義や取り組みを行っているのだろうか。「それが、なんだか最初に思っていたより随分幅広い講義をやることになっちゃって。たとえばCSR、企業危機管理…これはBCPなどの策定方法なども含みますし、なぜ企業は存続し続けなければならないか、という命題まで遡って考えなくてはいけないので、経済学の領域ともかぶっ



**知識と技術、そして実戦力を備えた
若者たちを、地域を巻き込んで育てたい**

ています。もちろん、本来の防災啓蒙やボランティア活動についても講義をしていますから、随分忙しく過ぎています」と、苦笑いの中田氏。だが、そんな幅広い領域にわたって学びを得ることが出来る中田ゼミは、毎年多くの志望者が集まり、所属者を選抜しなければならぬほどの人気ゼミへと成長しているようだ。

さらに中田氏には、神学大の中でもうひとつ重要な使命がある、それが神学大シーガル・レスキューを



訓練中のシーガル・レスキューのメンバー

指導する、顧問としての役割だ。

シーガル・レスキューは、2015年
に同大で発足した学内任意団体で、
消防や警察、自衛隊、海上保安庁な
どを目指す学生たちの事前学習の
場、そして有事の際に冷静に行動で
きる防災人財育成の場として活動
している。

約50人からなるメンバーは、訓練
の中でケガの手当ての方法やロープ
の結び方などをマスターし、同時にそ
の技や知識を地域の人々に伝え、地
域に貢献することを目的に活動に
励んでいる。

「神戸はなにしろあの震災を経験
していますから、防災意識はかなり高
い土地柄です。しかし、20年以上の歳
月が経ち、被災の記憶を持つている世
代とそうではない世代の間に、意識の
濃淡が生じていることも感じられる。

大学に通っている若者たちは、ま
さに震災前後に生まれた世代で
す。今では見事な復興を遂げたこの
場所、あの日なにか起きたのかを
しっかりと学び、いざという時に人々
の命を救える防災人になってほしい
なっています。

そんな気持ちで平時から訓練を
行い、学園祭や地域のイベントなどで
地域の人々と交流しながら、防災P
Rを行っています」。

シーガル・レスキューの活動の様子

メンバーは約50名からなる。学園祭や地域イベントで、子どもたちにロープの結び方やAEDの使用法などを教えて災害時の智恵を伝える。



討論するだけでなく、共感も生まれる 異なる視点を知ること、さらに理解が深まる 防災・社会貢献ディベート

この他にも、神学大は多くの防災教育拠点となっている。毎年、震災の記憶を新たにする2月中旬に同大のポートアイランドキャンパスで開催されている「防災・社会貢献ディベート大会」も、そのひとつだ。

2009年、震災後15年を契機に始まったこのディベート大会は、防災に関わる論題を決めて討論を行い、その「論理的説得力と共感性」を競うというもので、全国から社会人・大学生・高校生のチームが参加している。

2016年の論題は「わが国は、災害危険区域内を非住宅地域として指定すべきである」というもの。極論のように聞こえるかもしれないが、確かにそうすれば人的被害は抑えられる、というこの論題に対し、肯定派と否定派が互いの意見を戦わ

せる大会の様子は、災害の現場でも間々ある、異なる立場や意見のぶつかり合いをいかに調整するかというコミュニケーションのようにも見える。

「ディベートは、単に討論者の優劣や勝ち負けを競うものではありません。討論に向けてチームのみんなや準備を行うこと。別の視点から出された意見に耳を傾け、自分たちの主張を深掘りするとともに討論全体の経緯を振り返ること。そういった過程を通して、与えられたテーマへの理解を深めることが大事なのです」と、運営・競技指導でこの大会に携わっている中田氏はいう。

自らの現場経験をより多くの人に伝え、広めたいと願った異色の防災エキスパートの取り組みは、かつての被災地で、次代の防災人を育てる原動力となっているのだ。



会場となった神戸学院大学
ポートアイランドキャンパス

— 防災・社会貢献ディベート大会 —

今年で7回目を迎えたディベート大会。2016年は一般・高校・大学 全12チームが参加。

目的

論題について異なる立場(肯定側と否定側)に分かれて討論する。競技ディベートの目的は、討論者の優劣や勝ち負けを争うのではなく、討論に向けて準備し、実際に討論、討論の経緯を振り返るといふ一連の過程を通し、参加者全員が与えられたテーマに対してより深い理解を得ることにある。

今大会の方針・ルール

- 論題について、一般・大学生・高校生からなるチームがその説得力を競い合う。
- 4リーグに分かれ、各チーム2回対戦。各リーグの1位通過の4チームで決勝トーナメント。
- 高校生チームが大学、一般チームと対戦する場合、アドバンテージを設ける(予選リーグのみ)
- 審査には、関西ディベート交流協会(KDLA)の方々や防災、社会貢献分野の専門の方々、聴衆審査員の方々によって審査を行います。



大会を終えて記念撮影



ディベート中の様子



2016年 優勝チーム

ディベートの開催記録、講評などは、公式ホームページでもご覧いただけます。
[URL] <http://debate-bosai.info/>



集 特 賃貸オフィス・工場を、傷つけずに耐震性を高めたい 東京五輪を前に移転検討中の企業から熱い注目

3・11と東京五輪が変える 企業の安全意識

人材サービス大手のパソナと、総合電機メーカー大手のパナソニック。両グループで培われたノウハウと実績をいかし、総務関連のアウトソーシングを担っているのがパソナ・パナソニック ビジネスサービス株式会社だ。

「総務関連の」とひとくちにもいっても、その業務は多岐にわたる。細かいところでは名刺の印刷やオフィスで使う物品の手配から、大きなところでは株主総会の運営まで。ありとあらゆるオフィスの困ったを、総合力でサポートしているのが同社なのだ。そんな同社の数あるサービスの引き合いが急増しているのがオフィス・工場設

備の耐震対策だ。

その背景とサービスの詳細を、同社広域営業本部の齋藤佑美さんに伺ってきた。

クです。

東京都心部には、高度成長期に建てられたオフィスビルが多数あり、その多くが築30年を超えています。オリンピックを前に、これらの建て替えや大規模な新築プロジェクトが多数進む中で、そこに入居している企業の移転も加速度的に進むことが予想されます。

こうした企業が、移転に際してより安心・安全なオフィスにするため、当社にご相談くださるというケースは、今後ますます増えるでしょう」と、齋藤さんは分析する。

「その他にも、現在のオフィスや工場に耐震補強をしたいというご相談を多数いただいております。

建物自体は耐震性を考慮して建設されていても、その内部にはコピー機等のビジネス機器やデスク、本棚など、しっかりと固定されていない什器がたくさんあります。

大きな震災になると、固定されていない什器類が凶器となって人命を脅かすということが



▲広域営業本部 齋藤佑美さん

周知され、対策を検討する企業が増えています。

当社では、こうした既存オフィス・工場を、効率よく耐震化するためのツール開発や施工、プロによる改善ポイントチェックなども承っております。

『強力ゲル×固定金具』で床や壁を傷つけることなく耐震強化

オフィスや工場の耐震補強に際して、同社が使うツールは主に2つ。

ひとつはゲル状の「耐震マット」。一見、ホームセンターや100円ショップなどで安価に売られている類似商品と違いがあ

るようには見えないが、そこはプロが用いるだけあって、震度7相当まで対応する強力な粘着力と、長期にわたる耐久年数、防衛施設学会によつて承認された専用品である。

そしてもうひとつが「設備固定金具」。こちらは既成のものもあるが、基本的には現場を見て、オリジナルで製作することが多いという。

「オフィスや工場で使われる什器や機械は重いので、耐震補強をするにも釘やネジでがっちり固定することが求められます。でも、実際には多くのオフィスは賃貸ですから、そうそう釘やネジを打ち込むわけにはいきません。



「ここ数年、耐震対策の需要が高まっているのは、やはり多くの企業が3・11を経験していることが挙げられると思います。

あの震災の後から、BCP(ビジネスコンティニティプラン/事業継続計画)策定に取り組み企業が増えましたし、災害対策の有無が企業の評価ポイントになるといったように、意識が変わり始めました。

そしてもうひとつの理由が、4年後に迫った東京オリンピック

また施工の跡自体はそれほど気にしなくてもいい自社ビルや工場などでも、補強工事のせいで躯体が傷つき、かえって建物の強度に悪影響が出る可能性があります。

そうした悩みを解決するため開発したのが、この2つのツールの組み合わせです。そして、その効果を最大限発揮するためには、最初にプロの視点で現場をチェックさせていただき、設置する位置や個数を洗い出す工程がとて重要なのです。

実際に現場を見てみると、市販品を用いてある程度の耐震対策をしたつもりなのにオフィスでも、実際にはあまり効果を発揮できない位置に固定していたり、重量や重心位置に対して数が足りず、用をなしていない現場と

というのが散見されるといいます。

ツールの品質もさることながら現場にあった施工が重要

「施工前の現場チェックでは、固定したい機材に対する必要な位置・個数を割り出し、時にはレイアウト自体の変更を提案します。

その上で、固定するものや設置箇所にあった固定金具を製作して、耐震マットを敷き、施工します。建物に対して釘やネジを用いることはありませんから、移転の際の原状回復も簡単ですし、移転先で再利用することも可能です。

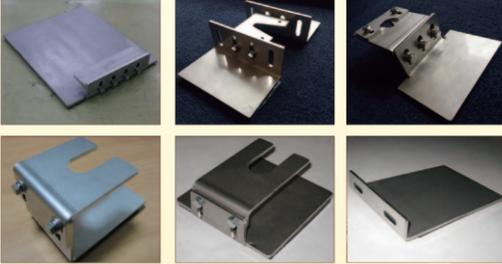
かんたん施工に必要なツール

震度7に対応!

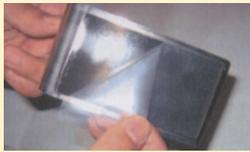
耐震超力 エックスマット
EX Mat
超粘着性震動吸収耐震マット



■ 固定金具 (一例)



耐震マット×固定金具でかんたん施工。



かんたん施工の流れ

1. 調査



どのような危険が潜んでいるのか、現場を視察し、危険度をランク付けする。お客様と優先度を確認し、施工手順を決める。

2. 設計



お客様が求める震度に耐える金具を設計する。固定する対象物にあった形状・強度のある金具をつくるため、耐震計算書を作成する。

3. 施工



施工経験豊富なスタッフが現地に派遣し、適宜工事。希望があれば、施工手順を社員に指導(後日移動が発生した場合、社員自ら施工できるようにするため)。

安心感・安全性が違いますし、当社施工の場合は1年後には無償で不具合チェックにも伺います。長期的にはかなりコストパフォーマンスの高い耐震補強サービスになると自負しています。

また以前、おしゃりなセレクトショップを耐震補強したいというご相談があったときは、陳列棚の色にあわせて金具をピンクに塗装したこともありま

す。お客様のご希望に対し、細やかな対応を目指しています」と、齋藤さんは総合力を強調した。

3・11を経験した東北や、オリンピックに沸く関東、南海地震の危機が叫ばれる中部・関西・四国に、大きな地震に見舞われたばかりの九州。

災害大国日本において、耐震補強の需要はどのエリアにもあるが、国内80拠点のネットワークで対応し、クオリティの高いサービス提供が可能な点も、同社の大きな魅力だろう。

今後、耐震補強や移転を考慮しているオフィスや工場にとって、強い支えになってくれる存在といえそうだ。

問い合わせ先

パナソニック
ビジネスサービス株式会社
広域営業本部 東日本営業所

〒100-0011
東京都千代田区内幸町1-3-1
TEL:050-3758-1512
受付時間 9時~17時30分(平日)
<https://www.panasonic-pbs.co.jp/>

~くらしを守る 企業を守る 社会を守る~

レスキューツール
LUKAS eドローリック (第2世代)が新登場!!

第2世代の特長
パワーアップ! 使用時間が従来の2倍!
軽量化!

eドローリックの特徴
□スイッチオンで直ちに救助!
□2電源方式!(Liイオンバッテリー、AC100V)
□使用時間:約1時間!

SP310E2 スプレッター
S311E2 カッター
SC250E2 コンピツール

電動油圧救助資材

帝国繊維株式会社
【本社】〒103-0027 東京都中央区日本橋2-1-10 柳屋ビル7F
TEL:03-3281-3033 FAX:03-3274-6397 <http://www.teisen.co.jp>

Normeca Asia
SUPPLIER OF MEDICAL EQUIPMENT

日本で最初に災害・救急医療を導入!
「正しい教育」と「正しい装備」を提供します!
<http://www.normeca-asia.jp>

株式会社ノルメカエイシア 東京都台東区浅草橋3丁目19-3
TEL:03-5687-3899(代) FAX:03-5687-3911

◆REPORT◆ マスメディアに おける防災の 取り組み

災害にだって「地域色」がある 地元密着型テレビ局だから出来る防災への貢献

あなたにカンケイあるテレビらしく
各地にピンポイントの情報を



関東圏の住人に「テレ玉」の愛称で親しまれているテレビ埼玉は、その名の通り埼玉県一円を放送対象圏とするテレビ局だ。

地盤が安定しており、内陸県である埼玉は昔から災害に強い県といわれてきた。しかし、近年では宅地開発の影響なのか地震による液化化や、温暖化による大雨での浸水といった、被害が発生することが増えている。

地元密着型テレビ局として、地域防災と向き合う同局の取り組みを伺ってきた。

3・11東日本大震災をきっかけに 災害対応ルールを再確認

「テレ玉報道部が、災害対応策を改めて見直し、初動ルールを決めるきっかけとなったのは、やはり東日本大震災でしたね」と振り返るのは、テレビ埼玉報道制作局報道部長である余野誠さんだ。

「東北の被害があまりに甚大だったため埼玉への関心は低かったです。実際には県東北部の久喜市などでは液化化現象による住宅被害などが発生しました。埼玉にも、確かに被災した方々がいたのです。」

その後も、全国のニュースに埼

報道するかの基本ルールを決めたのです。

地震のような突発災害と、天気予報などによってある程度準備しておくことができる天候災害の二段構えで、いざという時に備える体制がこれで整った。

「とはいえ、ルールを決めただけでは、いざという時そのとおりに動けるかは分かりません。そこで社員にはルールを記載したエマージェンシーカードを配布し、常に携帯するにしました」と余野さん。

お馴染みのテレ玉くんが、テレ玉社員の緊急時対応を教えてくださいというわけだ。



社員全員が携帯しているエマージェンシーカード

「今いる場所」の情報発信に データ放送が大活躍

報道体制は整えた。次の課題は、どうやって視聴者にニュースを届けるかだ。

「災害が起きたとき、若い方やお勤めの方であればスマートフォンやパソコンで情報を集めることができます。しかしそういった機器や情報収集手段を持たない方、耳が不自由でラジオや防災無線など聞き取りにくい方にとっては、やはりテレビが頼みの綱。そこで、当社がいま力を入れているのが市町村データ放送サービスです。」

これは県庁や県内市町村が発信した情報を、そのままテレビ画面に表示できるという画期的なシステムです。通常の放送では各地域の情報を全部はお伝えできませんが、これなら各地域のきめ細かい情報をフォローできます。

たとえば当社はさいたま市にありますので、この部屋でテレ

ビをつけ、テレ玉にチャンネルを合わせ、リモコンのdボタンを押すだけで、さいたま市からのお知らせがパッと表示されます。

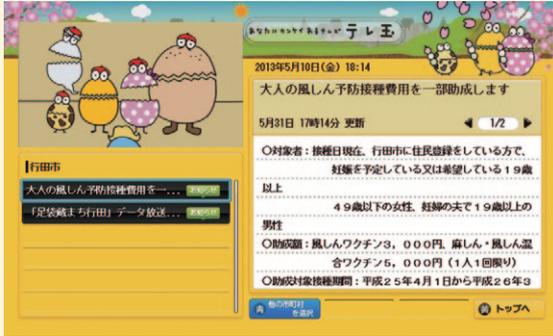
これは、(財)マルチメディア振興センターが運営するシアラート(公共情報コムズ)を利用したサービスで、各自治体の担当者がネットワークシステムに入力した情報が、リアルタイムで表示される。

このサービスのいいところは、視聴者ではなく自治体が契約することで、いつでも地域住民に、一番身近な情報提供ができるという点だ。緊急時に役立つのはもちろん、平常時でも自治体からのメッセージやイベント情報などを表示しておけるため、各地のPRの場としても有効活用できるのだ。

「埼玉は、小さいようで広い県です。川沿いに住宅地が広がる県東部、平坦な中央部、山がち

テレ玉が提供する市町村データ放送サービス画面

平常時



▲テレ玉データ放送画面
平常時は、契約自治体のイベント情報などが掲載される。

災害時



▲災害発生時は、避難情報に加え、避難所情報が、視聴者の居住地域ごとに表示されるため、情報の伝達が格段にあがる。



▲災害時の対応を再整備してその運用について、お話しくださった報道制作局 報道部長 余野 誠さん

ですが、まさに自分にとって、最も必要な情報に、簡単にアクセスできるのがテレ玉なんだと、視聴者の方にもっと知っていただきたいですね」と、余野さんの想いは熱い。

な県西部と地域色は実に豊かで、それはイコール、発生しやすい災害も地域によって違うという事です。
全国ニュースで、埼玉県に大雨警報と報道されたとしても、埼玉のどこなのかによって、対応のしかたも変わる。だから、全国

や県ではなく、自分が今いるところ、住んでいるところの情報ポイントで見ることができているシステムには、防災ツールとして大きな可能性があると感じています。
テレ玉のキャッチフレーズは「あなたにカンケイあるテレビ」

発災時だけでなく、長期的・定期的な報道で風化させないのも地方局の使命

「報道機関には、災害に対する3つの義務があると思います。ひとつ目は、未然に防ぐための知識・情報を提供すること、二つ目は、なにが起きているのか、被害状況を速やかに伝えること、そ

ただ残念なことに、このサービス契約を結んでいるのは、まだ県内63自治体のうち、29自治体(2016年8月現在)しかない。いかに契約自治体を増やし、同時に視聴者に対して、このサービスの存在を周知するかが、今後の課題となるだろう。



株式会社テレビ埼玉

して三つ目がその後を伝えつづけることです。
たとえ大きな災害があっても、状況が落ち着くと、被災者以外の人の記憶は薄れていきます。
きちんと長期的に記録に残し、災害の記憶を風化させないことで、いつか起こる次の災害時には、もっと被害を抑えられるように。そんな役割も、我々は担っているのだと思います。
地域を愛し、地域に密着する地方局ならではの誇りと責任感が、その言葉から伝わってきた。

〒330-0853 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-36-4
TEL: 04-8824-3131
https://www.telutama.jp
開局昭和54年4月1日
■市町村データ放送サービスに関するお問い合わせ先
TEL: 04-8824-3136 (営業局)

株式会社 赤尾 消防用品総合商社 [URL] <http://www.akao-co.com/>

ホルマト口油圧救助器具 **消防特殊車両** **消防服装関係**

□東京営業部: 東京都千代田区外神田 6-13-13 TEL: 03-3832-2201 FAX: 03-3833-6217
 □大阪営業部: 大阪市西区新町 4-13-1 TEL: 06-6532-4131 FAX: 06-6536-7456
 □福岡支店: 福岡市博多区那珂 3-11-20 TEL: 092-431-9221 FAX: 092-451-3433
 □名古屋支店: 名古屋市東区葵 3-23-10 TEL: 052-934-2611 FAX: 052-934-2615
 □仙台営業所: 仙台市青葉区花京院 2-1-61 TEL: 022-722-0884 FAX: 022-722-0796

MRI Research Associates
エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社

三菱総研グループの一員として、総合的なサービスを提供します。

防災分野のサービス例

- ・災害をもたらす現象の解析支援
- ・防災計画・対策の検討支援
- ・災害による被害想定作成支援
- ・対応・対策の検証支援
- ・上記を支える、ステークホルダー間のコミュニケーションの支援

「こたえて、共に未来へ。」

課題に「答え」、期待に「応え」て、お客様と、社会とともに、成長してまいります。

東京都千代田区区内神田1-13-1
TEL: 03-3518-8505 <http://www.mri-ra.co.jp/>

INFORMATION SQUARE

救急現場の最前線で活躍!

「多言語対応 金沢救急アプリ」

— 金沢市消防局 —



取材協力 / 金沢市消防局
文 貞 / 徳竹

平成28年3月20日、金沢市消防局が運用を開始した「多言語対応 金沢救急アプリ」に注目。
外国人に対応したこのアプリの開発経緯、特長を取材しました。

外国の方との円滑な意思疎通、適確な救急活動を。

「近年、金沢でも来日・在日外国人の方が増えてきました。一刻を争う救急現場において、日本語の通じない外国の方から、正確な症状や情報を得ることは難しく、それが原因で救急現場での滞在時間が遅延したり、外国人の方もコミュニケーションが取れず不安感を持つたりと、救急活動に支障をきたす危機感を持っていました。そこで3年前から計画をスタートし、平成27年にはプロジェクトチームを立ち上げ、開発を進めてきました。今年3月20日より、ついに運用を開始できるようになりました。」と、開発の背景と経緯を金沢市消防局警防課救急救助係の担当者はお話してくださりました。

翻訳表示、音声ナレーション機能、英語・韓国語・中国語(簡・繁体)に対応

救急隊員はタブレット端末に入っている「金沢救急アプリ」を起動させ、傷病者が通常に聴き取り可能な、緊急対応が必要かを判断します。

それぞれに応じたステップで、聴き取りをスタート。
最初に、傷病者の対応言語を選択し、あとは画面のナビゲーションに沿って聴取していきます。

「アプリの特長」

- ①イラストやタッチボタンを用いて、症状や痛みの部位を正しく把握することができます。
- ②病気・ケガの症状に応じた聴取事項が組み込まれています。
- ③重篤傷病者に対しては、短時間で重要情報を得るための「緊急対応」機能や「記録閲覧」機能を搭載。



▲アプリの基本画面
①が通常対応時聴取事項
②が緊急対応時聴取事項



▲運用は、救急現場や救急車両の中。救急隊員が操作し、症状や状態を聴取、適確な救急活動を行える。

- ④質問内容を音声ナレーションで問いかけるので、救急隊員は傷病状態の把握が可能
- ⑤傷病者の不安感を和らげる「傷病者への励まし」などのメッセージも実装。
- ⑥金沢市医師会からの医学的見地の指導・助言もいただき制作しているのも特長です。

アプリを使用して対応した救急隊長は、こう振り返る。

「傷病者の方の身分証明の提示や痛みの箇所について、迅速に聴取することができた。また『励ましのメッセージ』は、不安感を和らげることができた。外国人傷病者からも対応言語の表示と音声の流れられた瞬間、安心した表情が見受けられた。」

実際、アプリを使った外国の方からも「わかりやすかった」というお言葉もいただいたという。

金沢マラソンでも導入が決定。

10月23日(日)に開催される「金沢マラソン」でも導入が決まっている。こちらは救急隊員以外の医療スタッフも救護所で使用できるように「応急救護対応」の拡張機能が追加され、準備も万全です。

市内全救急隊へ配置を目標して

今後については、現在、使用事例や状況などを救急隊員からヒアリング、検証中。今後、金沢市内の全救急隊への配置も検討し

ているそうです。
私たちも海外で予期せぬ病気やケガをした際は、言葉の壁で相当な不安を抱いてしまう。日本へ来た外国の方もきっと同じ。そんな時いち早く、適確な救護がなされる環境が全国的に整っていくことに期待したいと思います。

【アプリ画面展開例】



問い合わせ先

金沢市消防局 警防課
救急救助係

浜野 武志 / 白木 武

電話：076-280-3092

※多言語対応「金沢救急アプリ」は、一般者向けにダウンロードできる「アプリ」ではありませんので、ご注意ください。

4コマ劇場
防災体験やっている?



obopedia Vol.7

防災体験やっている?

地震が発生して、二次的な災害は「火災」。被害が拡大してしまう要因は地震直後の火事の発生が大きいです。そのために、初期消火はポイント。消火器を使って身近な出火元を消火しましょう。

消火器の使い方

- 安全ピンを抜く。
- 先端を持って火元に向ける。
- レバーを握る。

でも、一番は「身の安全」です。無理はせずに、危険を感じたらすぐに避難してくださいね!!

よい!スル「おぼえとこっ!」

3.11 東北を忘れない...

Vol. 7

—東北エリアからのレポート—

せんだい3.11メモリアル交流館ができること

「せんだい3.11メモリアル交流館」(以下、「メモリアル交流館」と表記)は、2015年12月6日の仙台市地下鉄東西線の開業に合わせて開館した震災メモリアル施設です。東西線の東の終点である荒井駅に併設しており、周辺の仙台東部エリアには豊かな自然環境が広がっています。一方で、この仙台東部エリアは東日本大震災では大きな津波被害を受け、自然環境を含めて「当たり前の日常」を一度すっかり失った地域でもあります。町並が奪われて解散した集落もありますし、再び暮らすためにたくさんの苦労を重ねた地域もあります。メモリアル交流館の周辺には新しい町ができてきました。

こうした変化の中にあるメモリアル交流館は、「東日本大震災の経験や記憶を後世に伝える」という震災メモリアル施設としての役割だけではなく、仙台東部エリアの豊かな地域資源を積極的に発信していくこと、そして、その地域資源の豊かさを踏まえた上で地域再生への力を形成していく場としても機能することが求められています。

メモリアル交流館は地域にとっては新参者ですので、「どうしたら顔を覚えてもらえるだろうか」と試行錯誤の日々です。それでも、夏には七夕飾りやずんだ餅を作ったり、身近な素材で作られた生活道具をお借りして展示させていただく等、地元住民の皆さんからご協力いただきながら運営に励んでいます。暮らしにおける知恵と技が溢れていることも、仙台東部エリアの大事な地域資源なのだと感じています。

自然の豊かさを当たり前にも実感できることも、地元の皆さんの知恵と技に助けられながら事業を行えることも、東日本大震災からの復興の証であるという実感があります。来館された方にとって、東日本大震災からの時間を振り返りながら、被害を受けた地域で長らく営まれてきた暮らしの尊さに気づいていただける機会になることを願っています。

せんだい3.11メモリアル交流館
田澤 紘子



▲1F 交流スペース



▲2F 展示室



◀仙台沿岸イラストマップ
(作:佐藤ジュンコさん)

せんだい3.11メモリアル交流館

〒984-0032 宮城県仙台市若林区荒井字沓形85-4 (地下鉄東西線荒井駅舎内)

【開館時間】
10:00~17:00

【休館日】
毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)
祝日の翌日(土・日曜日、祝日を除く)
年末年始、臨時休館日

【アクセス】
仙台駅から、地下鉄東西線
荒井駅行きで13分





▲「一人語り」上演の様子

Q1 三咲さんが行っている「二人語り」を始めたいかと、テーマを教えてください。

私は音楽大学を卒業後、女優や歌手を仕事としてきました。舞台やコンサートで多くの人と触れ合う中で、自分がずっと大切に思っていること……たとえば、いのちの大切さや思いやり、人との絆といったものをテーマにした作品を演じてみたいという思いが強くなり、自ら作詞作曲し、ピアノの弾き語りや歌、演技でストーリーを表現する「二人語り」というスタイルを編み出したのです。これが2002年のことでした。

第7回目に登場するのは、女優や歌手として幅広く活動する傍ら、火事や地震といった災害をテーマにした「防災一人語り」も全国で公演している三咲順子さん。実話をもとにした心に響く物語を、美しい音楽と歌声にのせて全国に届けている活動の様子をご紹介します。



三咲 順子さん

東京都出身。国立音楽大学卒業。女優として舞台、TV、CM出演で活躍している。2002年からは自作曲のピアノを弾き語り、歌い、演じる独自のスタイル「一人語り」をライフワークとして全国各地で上演。病院や老人ホーム、全国の被災地での朗読やコンサート等ボランティア活動にも熱心に取り組んでいる。

この「二人語り」は、基本的にフィクションであり、ファンタジックなものでした。

「二人語り」の公演を行っていた2005年のある日、コンサートの事務局長さんを通じて私に1本の連絡が入ったのです。お相手は消防署の署長さんでした。

「ぜひお願いしたいことが」と相談されてお会いしてみたら、署長さんは以前、私の「二人語り」公演を見てくださったそうです。そして、かつて関西で起きた火災で亡くなった男の子と、その家の消火活動にあたった消防署員の手記を「二人語り」スタイルで演じてくれたら、広く防災啓蒙に役立つのでは……と考えたのだそうです。

そのオファーを受けたことから、実際の災害や事故をテーマとした「防

Q2 第1作目の「おにぎりいっぱいのおにぎり」の初演が、2005年秋の火災予防運動のイベントだったそうですね。その後「防災一人語り」のシリーズは、何作上演されているのですか？

実話を元にした記事や手記がベースで、音楽、演出などをすべて自分で考えているので、新作を作るまでにはなかなか時間がかかりました。2016年時点で公演できるのは7作ですね。

Q3 「防災一人語り」では、どのような災害を取り上げているのですか？

1作目は火災でしたが、それ以降は阪神淡路大震災をテーマにした「ごく普通の家族」

Q4 火災や交通事故といった身近な災害から、地震、火山噴火などの大災害まで、幅広い演目にチャレンジしているのですね。観客の方の反応はいかがですか？

「防災一人語り」は、おかげさまで全国からお声がけいただいています。実際に被災した地域でも話しましたし、平和な街でも公演させていただきました。観客の方は、たとえ当事者ではなくとも、怖さや悲しさや臨場感をもって迫ってきて、災害への備えをしっかりとしなくてはと感じてくださっているようです。

Q5 「防災一人語り」やボランティアコンサートなどを行っています。三咲さんご自身はどんな想いを抱いていますか？



▲様々な役を一人で演じ、物語を伝える三咲さん

おぼえとこっ! Vol.07 2016年9月発行
 編集・発行 / TSP太陽株式会社
 〒153-0043 東京都目黒区東山1-17-16
 TEL : 03-3719-3357 <http://www.tsp-taiyo.co.jp/>
 協力 / 神戸学院大学
 パナソニック・パナソニックビジネスサービス(株)
 株式会社テレビ埼玉
 金沢市消防局
 制作 / 「おぼえとこっ!」編集委員会

記事に関するご意見、ご感想、取材の申込はこちらのQRコードを読み込んで、お送りください。



編集後記



かつて日本で起きた災害に対し、次世代を担う学生・若者たちを通し継承していくことや、自分が今いる場所で何があったかを知るだけでもまた違った視点で見ることができます。企業も今ではオリンピックに向け、各地方ごとの特色に応じた施策を行うなど、災害への意識が高まっていると今回の取材で改めて感じました。

編集員 / 岩出 典子